

31
モーセ
聖徒伝 57

「引き継ぐべき 一つのこと」

申命記33～34章 モーセの死

申命記 11

【今日のアウトライン】

0. イン트로ダクション

I. イスラエルへの祝福 33章

II. モーセの死 34章

III. まとめと適用

モーセが見つかった一つの真理

ひとかたまりの神の計画に抱かれて



【アブラハム契約とは？】

聖書全体を貫く、大原則

神の世界回復と人類救済計画の柱

【三つの主な条項】

①子孫の約束

②土地の約束

③祝福(地上の諸民族の祝福)の約束

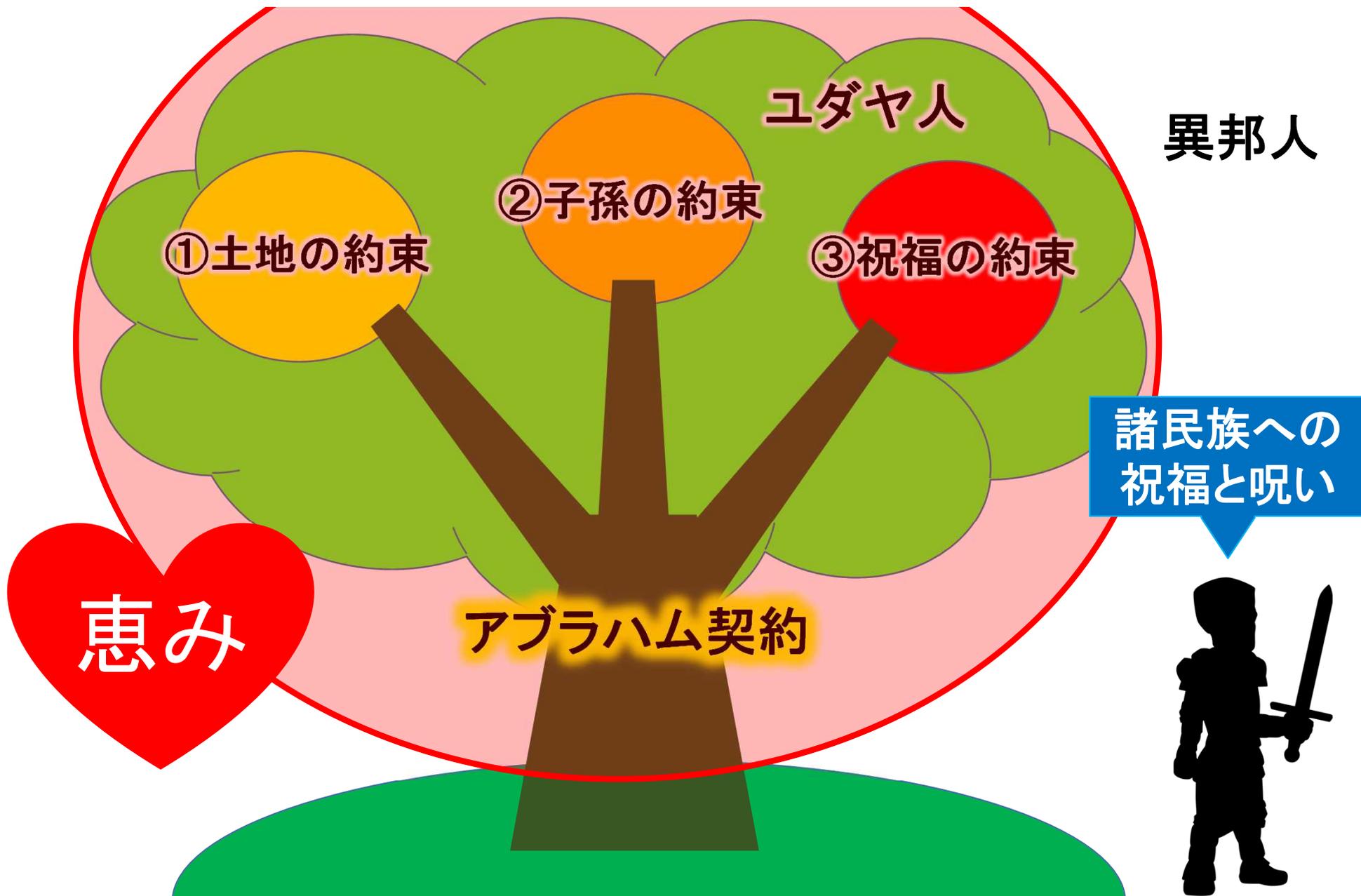
※付帯条項 ...祝福と呪い。イスラエルの生存保証。

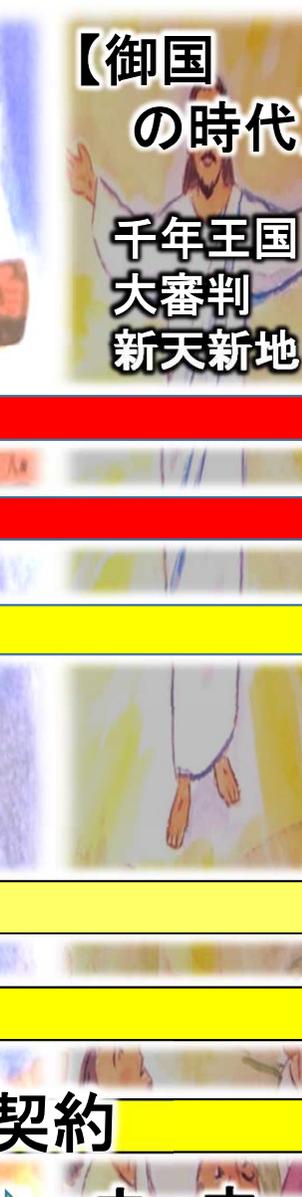
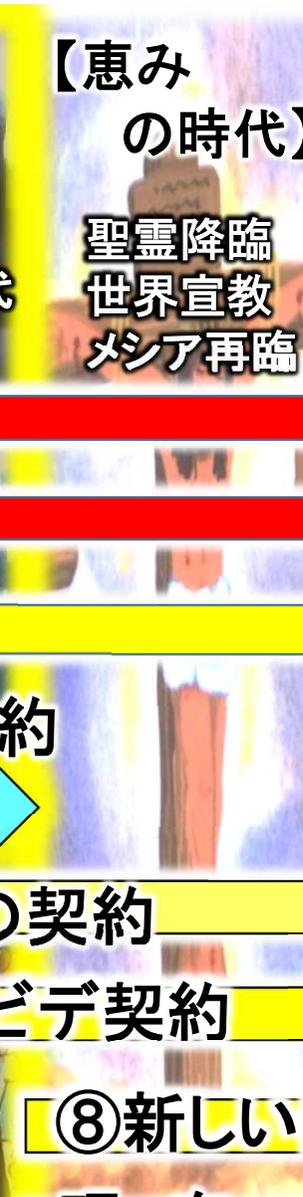
※しるし ...割礼

イスラエルを
守り導く土台



【アブラハム契約】





【無垢の時代】

【良心の時代】

【人類統治の時代】

【約束の時代】

【律法の時代】

【恵みの時代】

【御国の時代】

天地創造

墮罪
~大洪水

バベルの塔事件

アブラハム
~ヤコブ

イスラエル
王国時代
メシア初臨

聖霊降臨
世界宣教
メシア再臨

千年王国
大審判
新天新地

①エデン契約

②アダム契約

③ノア契約

④アブラハム契約

⑤モーセ契約

⑥土地の契約

⑦ダビデ契約

⑧新しい契約

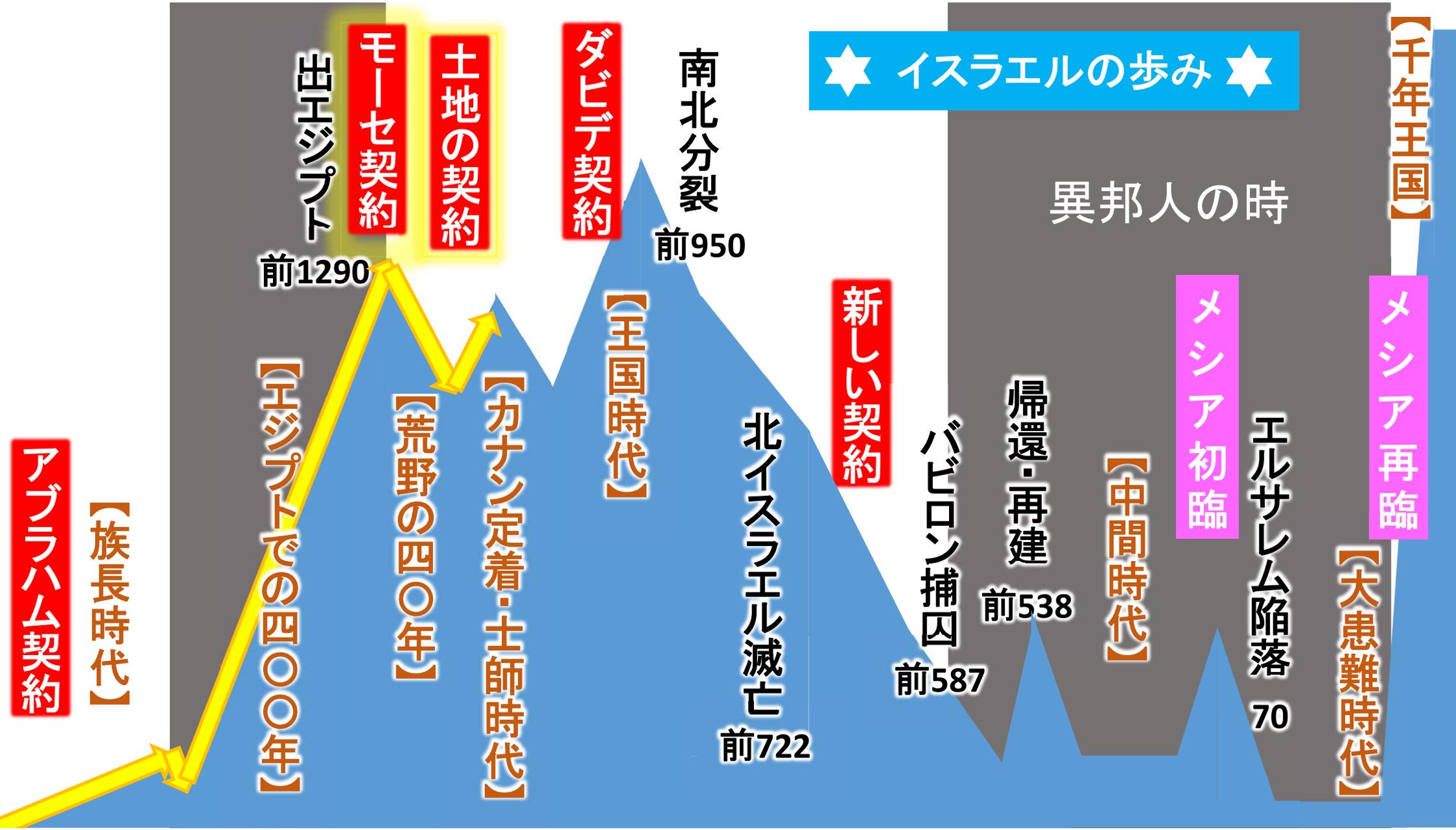
神の約束が、人類と世界の歴史を導く!!

過去

現在

未来

★ イスラエルの歩み ★



アブラハム契約

【族長時代】

【エジプトでの四〇〇年】

【荒野の四〇年】

【カナン定着・士師時代】

【王国時代】

北イスラエル滅亡
前722

新しい契約

バビロン捕囚
前587

帰還・再建
前538

【中間時代】

メシア初臨

エルサレム陥落
70

【大患難時代】

メシア再臨

【千年王国】

異邦人の時

南北分裂
前950

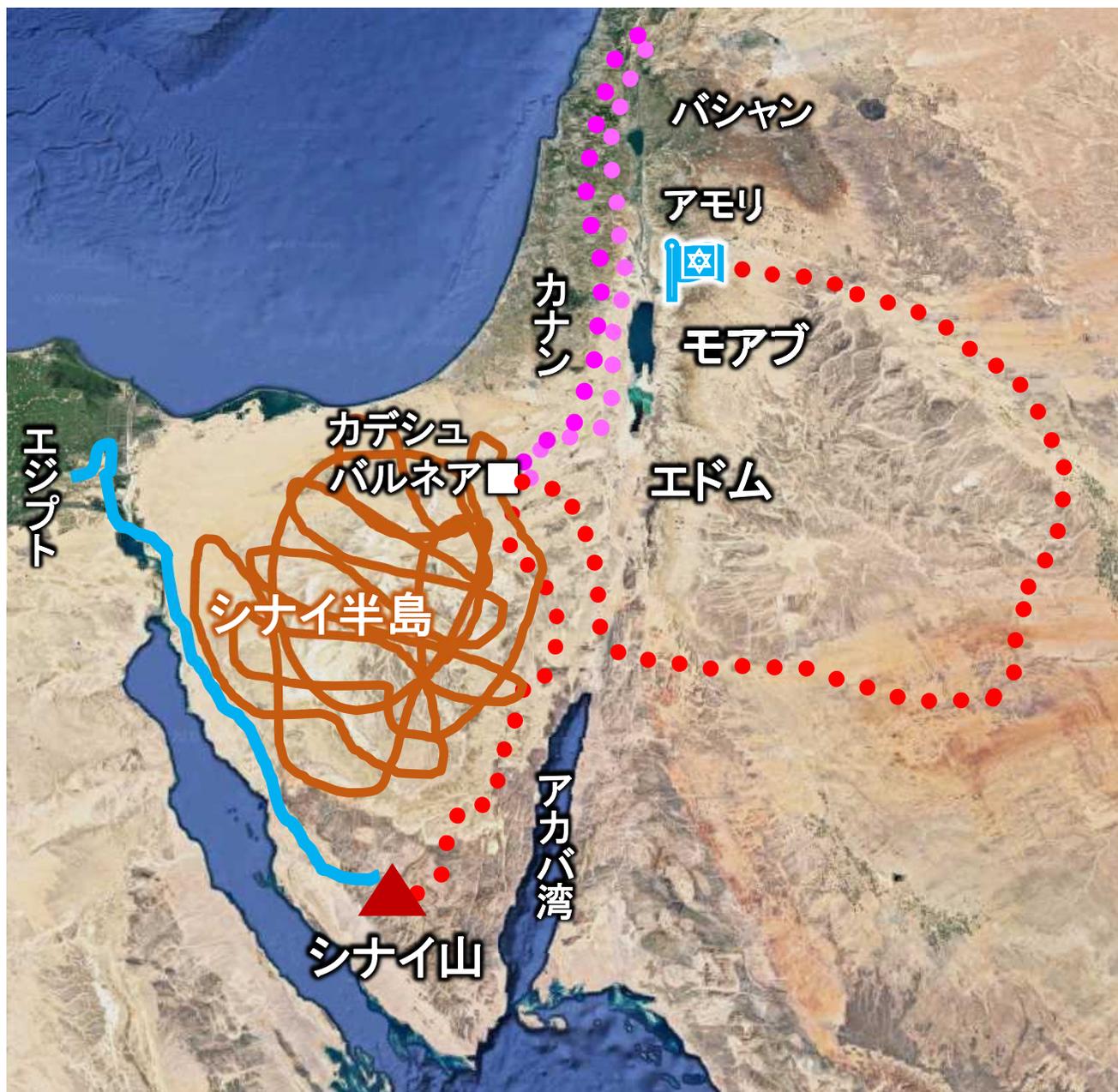
【荒野の40年】

■カデシュ・バルネア事件

イスラエルは、神に反逆し、その世代の者は、荒野で死に絶えることとなった。

■ エジプトから約束の地まで、歩いて10日ほどの距離をイスラエルは、40年放浪した。

■ ヨルダン川の東まで、イスラエルはやってきた。



【申命記・アウトライン】

I. 過去の回顧 1～4章

ホレブ山地からヨルダン川東岸まで 1～4章

II. 律法の解説 5～26章

① 十戒 5章

② 主要な規定(シエマ6:4～5) 6～11章

③ その他の諸規定 12～26章

III. 未来の展望 27～30章

① 祝福と呪い 27～28章

② 「土地の契約」 29～30章

IV. 指導者の交代 31～34章

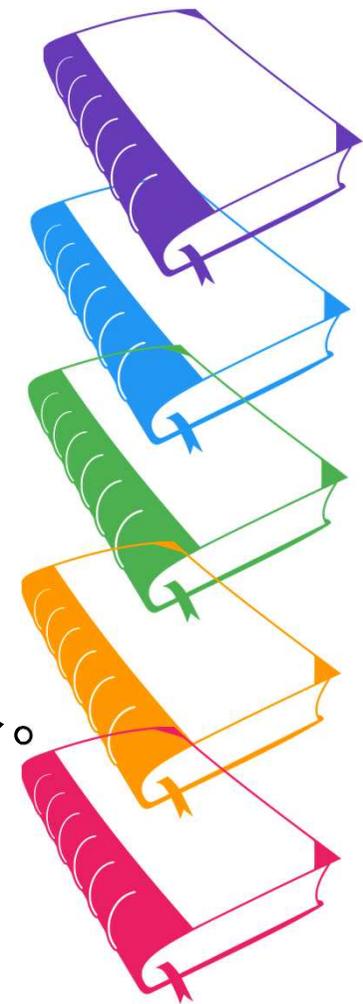
モーセからヨシュアへ



【モーセ五書(律法・トーラー)】 →本来は一つのもの!!

★広義の律法(モーセ五書) ★狭義の律法(出20章～申28章)

- **創世記** (「エデン契約」「アダム契約」「ノア契約」「アブラハム契約」)
...天地創造、墮罪、原福音、アブラハム⇒ヤコブまで。
- **出エジプト記** (「シナイ契約」・十戒)
...モーセ誕生。エジプト脱出。律法授与。幕屋の完成。
- **レビ記** (**三大祭**)
...律法。主に祭儀と清めの条項。民の学びの期間。
- **民数記** (**カデシュ・バルネア事件**)
...点呼、出発。民の過ちと神への反抗。40年の放浪へ。
- **申命記** (「土地の約束」)
...新世代への信仰継承。モーセの遺言。まとめ。



I. イスラエルへの祝福の遺言

申命記33章



ネボ山からの景色

【再臨の主】 申33:1～2

次は神の人モーセが、その死を前にしてイスラエルの子らを祝福した、祝福のことばである。

彼は言った。「【主】はシナイから来て、セイルから彼らを照らし、パランの山から*光を放ち、幾万もの聖なる者のところから近づいて来られる。その右手に彼らの御使いたちを伴って。

再臨に重なるイメージ?!

* イスラエルがたどってきた道筋と重なる。

■ 神は、天の軍勢を従え、イスラエルを守り導いた。

■ 世の終わりに、天の万軍と共に主イエスが再臨!!

➡ 主イエスの再臨の経路にも重なる?



【王となられる主】 申33:3～5

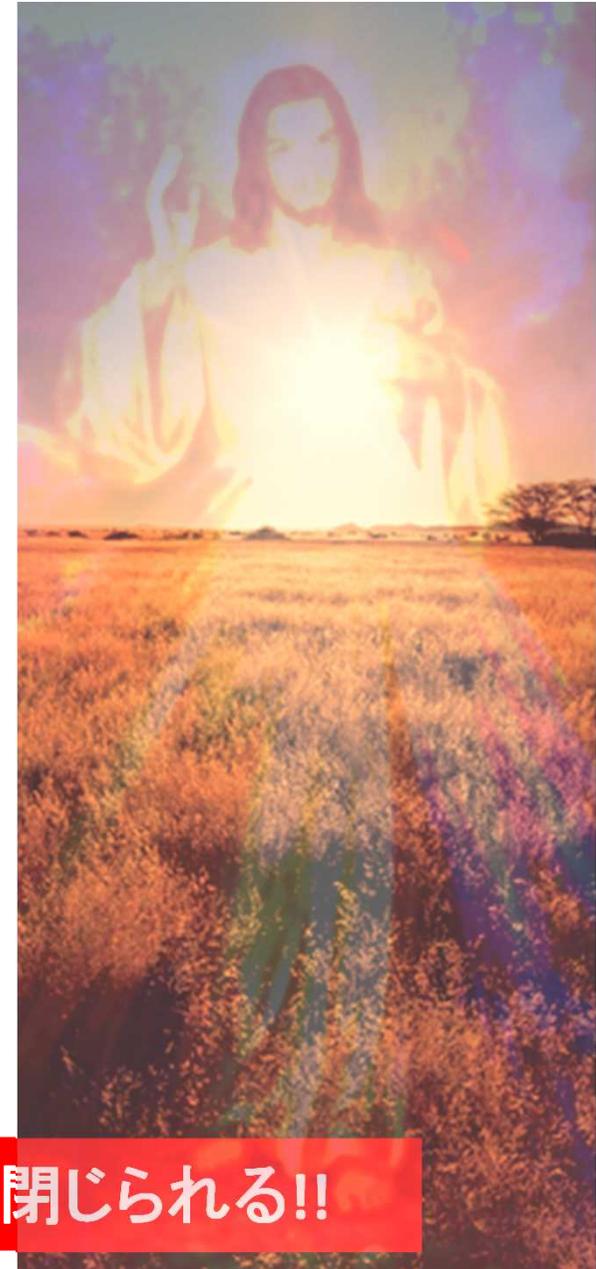
まことに、あなたはもろもろの民を愛する方、御手のうちにすべての聖なる者*がいる。彼らはあなたの足もとにひれ伏し、あなたの御告げを受ける。

みおしえはモーセが私たちに命じ、それをヤコブの会衆の所有とした。民のかしらたちがイスラエルの部族とともに集まったとき、主はエシュルンで王とられた。」

* 神の国(千年王国)に入るすべての聖徒たち?!

* 再臨の主イエスは、エルサレムに立たれ、
全世界、全民族、全イスラエルの王となる。

律法(モーセ五書)は、天地創造で始まり、メシア再臨で閉じられる!!



【ルベン、ユダへの祝福】 申33:6～7

「ルベンは生きて、死なないように。*その人数が少なくても」
ユダについては、こう言った。「【主】よ。ユダの声を聞き、彼をその民のもとに連れ戻してください。彼は自分の手で戦っています。彼の敵の前で助けとなってください。」

* ルベンの地は、モアブに隣接するヨルダン川東岸

➡最も戦い厳しい場所に嗣業の地を与えられた。

* 最大部族となるが、南王国・ユダは、バビロン捕囚を招く。

ユダヤ人は、エルサレム陥落(AD70)以降、世界に離散。

モーセの祝福は、千年王国で成就する預言？ だから祝福しかない!!



【レビへの祝福①】 申33:8～9

レビについては、こう言った。「あなたのトンミムとウリム*を、あなたにある敬虔な者に与えてください。あなたは彼をマサで試み、メリバの水のほとりで彼と争われました。彼は自分の父と母について『私は彼らを顧みない』と言い、自分の兄弟も認めず、自分の子さえ知らないとし、ただ、あなたの仰せのことばを守り、あなたの契約から目を離しませんでした。」

* 神託に用いられた二つの石

■ 前章の厳しい叱責、警告とは矛盾する真逆の内容

➡ レビも、かたくなに主を拒み、背教に至った。

しかし、レビが、本来の主の務めを全うする時が来る!!

あのレビが試練に打ち克つ時が来る!!



【レビへの祝福②】 申33:10～11

彼らはあなたの定めをヤコブに、あなたのみおしえをイスラエルに教えます。彼らはあなたの御前で香をたき、全焼のささげ物をあなたの祭壇に献げます。

【主】よ。彼の財産を祝福し、その手のわざを受け入れてください。彼に向かい立つ者の腰を打ち砕き、彼を憎む者たちが立ち上がれないようにしてください。」

■ 千年王国におけるエルサレムの神殿で、
レビは、誰にも邪魔されることなく、
与えられた務めを完全に果たす。

※レビの記述が長いのは、その役目の重要さゆえ!!



【ベニヤミンへの祝福】 申33:12

ベニヤミンについては、こう言った。「【主】に愛されている者。彼は安らかに主のそばに住まい、主はいつも彼をかばう。彼は主の背中に負われる。」

■ ヤコブの12人の息子の末子であり、
ヤコブの愛妻ラケルが
最後に産んだのがベニヤミン。

➡ 親に愛され、抱かれる、
末の幼子のイメージが、
そのまま、ベニヤミンへの
永遠の祝福として告げられる。



【ヨセフへの祝福①】 申33:13～16

ヨセフについては、こう言った。「彼の地は【主】に祝福されたもの。天の賜物の露、下に横たわる大いなる水の賜物、太陽がもたらす賜物、月が生み出す賜物、いにしえの山々からの最上のもの、永遠の丘からの賜物、地とそこに満ちているものの賜物、柴の茂みの中におられた方
*の恵み、これらがヨセフの頭の上に、その兄弟たちの中から選り抜かれた者の頭の頂に臨むように。

* 燃える柴から、主は御名をモーセに告げられた。

■ 天地のあらゆる賜物、恵みが、長子権を与えられたヨセフの一族に降り注ぐ。



【ヨセフへの祝福②】 申33:17

彼の牛の初子には威厳があり、その角は野牛の角。*
これをもって地の果ての果てまで、もろもろの民をことごとく突き倒して行く。* このような者がエフライムに幾万、
このような者がマナセに幾千。」

* 角は、権威を示すもの。

■ヨセフ族は、神の権威をもって、地を治める。
対抗できる者はいない。

* 弟のエフライムがさらに、ヨセフの長子権を継いだ。
エフライム族が、より祝福される。

➡でも、鶴と亀どっちが高尚とか争っても意味ないよね？



【ゼブルン・イッサカルへの祝福】 申33:18～19

ゼブルンについては、こう言った。「ゼブルンよ、喜べ。あなたが外に出て行くときに。イッサカルよ、あなたは天幕の中で。彼らはもろもろの民を山に招き、そこで義のいけにえを献げる。彼らが海の富と、砂に隠されている宝で育まれるからである。」

■「シオンからみおしえが、エルサレムから【主】のことばが出る(イザヤ2:3)」 ➡世界の民がエルサレムに上る。

■イエスのたとえから適用して理解すると...

- ・海の富(海の真珠) ➡ 異邦人信者
- ・砂に隠された宝(畑に隠された宝) ➡ ユダヤ人信者

世界中の民が、惜しみなく主に献げる

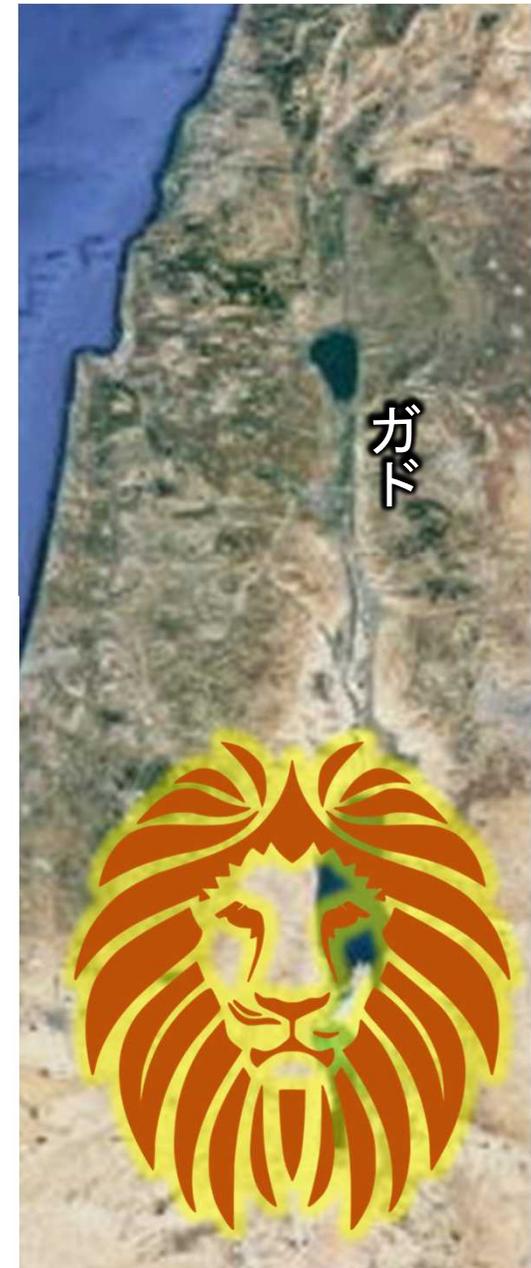


【ガドへの祝福】 申33:20～21

ガドについては、こう言った。

「ガドの土地を広げる方はほむべきかな。ガドは雌獅子のように伏し、腕や頭の頂をかみ裂く。彼は自分のために最良の地を見つけた。そこには指導者の分が割り当てられていたのだ。彼は民の先頭に立ち、【主】の正義と主の公正をイスラエルのために行った。」

- ヨルダン川東岸に嗣業の地を得たガドは、
カナンの戦いでも戦士として、大きな働きを担った。
- ガドもまた、神の国で、主の正義と公正を果たし、
主イエスと共に、世界を治める。



【ダン・ナフタリ・アシエルの祝福】 申33:22～25

ダンについては、こう言った。

「ダンは獅子の子。バシヤンから躍り出る。」

ナフタリについては、こう言った。「ナフタリは恵みに満ち足り、【主】の祝福に満ちている。彼は西と南を所有せよ。」

アシエルについては、こう言った。「アシエルは子らの中で最も祝福されている。その兄弟たちに愛されて、その足を油の中に浸す*ようになれ。あなたのかんぬきは鉄と青銅*
あなたの力が、生きるかぎり続くように。」

* オリーブ油...豊かな恵み * 町の城壁の門の堅固さ。

■ ダン、ナフタリ、アシエル、いずれも、北部の豊かな地域。

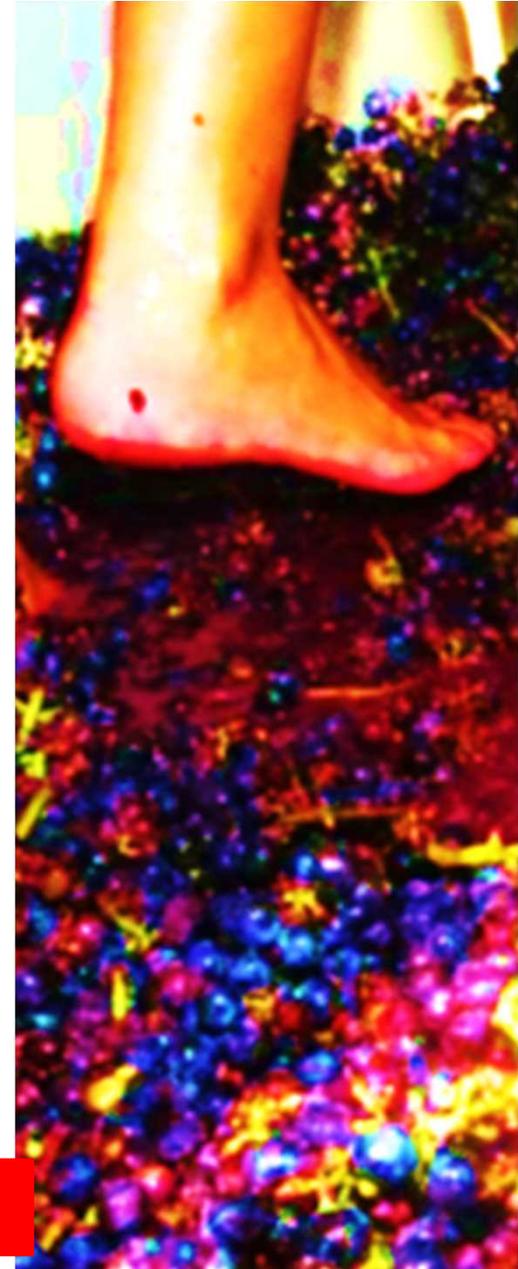


【イスラエルへの祝福】 申33:26～29

「エシュルンよ、神に並ぶ者はほかにない。神はあなたを助けるため天に乗り、威光のうちに雲に乗られる。

いにしえよりの神は、住まう家。下には永遠の腕がある。神はあなたの前から敵を追い払い、『根絶やしにせよ』と命じられた。こうしてイスラエルは安らかに住まい、ヤコブの泉だけが穀物と新しいぶどう酒の地を満たす。天も露を滴らす。幸いなイスラエルよ、だれがあなたのような、【主】に救われた民であろうか。主はあなたを助ける盾、あなたの勝利の剣。敵はあなたに屈し、あなたは彼らの背を踏みつける。」

最後に再び告げられる、再臨の主と千年王国のイメージ!!





Ⅱ. モーセの死

申命記34章

ネボ山からの景色

【モーセが見渡した約束の地】 申34:1～3

モーセはモアブの草原からネボ山、すなわち、エリコの向かいにあるピスガの頂に登った。【主】は彼に次の全地方をお見せになった。ギルアデをダンまで、ナフタリの全土、エフライムとマナセの地、ユダの全土を西の海まで、ネゲブと低地を、すなわち、なつめ椰子の町エリコの平地をツォアルまで。

■ぐるっと約束の地を見渡したモーセ。

東部 ➡ 北部 ➡ 中部 ➡ 南部

■最初の攻略地エリコが、最後に記される。

➡イスラエルの目の間に、エリコの城壁がそびえる。



【確認される先祖への約束】 申34:4~5

そして【主】は彼に言われた。「わたしがアブラハム、イサク、ヤコブに『あなたの子孫に与える』と誓った地はこれである。わたしはこれをあなたの目に見せたが、あなたがそこへ渡って行くことはできない。」

こうしてその場所で、【主】のしもべモーセは【主】の命によりモアブの地で死んだ。

主の約束を握りしめ、モーセは死んだ!!

- モーセの目の前に広がる地こそ、永遠のアブラハム契約の確かなしるしである。
- 今、その地に入ることはできないが、神の約束が完全に成し遂げられる時は来る。
➡ モーセが、アブラハムの祝福にあずかる時は来る。



【モーセの葬り】 申34:6～8

主は彼を、ベテ・ペオルの向かいにあるモアブの地の谷に葬られたが、今日に至るまで、その墓を知る者はいない* モーセが死んだときは百二十歳であったが、彼の目はかすまず、気力も衰えていなかった。*

イスラエルの子らはモアブの草原で三十日間、*モーセのために泣き悲しんだ。こうして、モーセのために泣き悲しむ喪の期間は終わった。

- * 主が遺体を隠された。崇拜の対象にさせないためか。
- * 死ぬまでモーセは祝福された。主がその命を取られた。
- * 通常の喪の期間は、7日間。モーセの偉大さを示すこと。



【後継者ヨシュア】 申34:9～

ヌンの子ヨシュアは知恵の霊に満たされていた。モーセがかつて彼の上にその手を置いたからである。イスラエルの子らは彼に聞き従い、【主】がモーセに命じられたとおりに行った。

- モーセに注がれていた神の霊は、ヨシュアに注がれ、満たした。
- 少なくとも、今しばらくの間は、イスラエルは、主が立てられた指導者ヨシュアに聞き従い、神に導かれて、いよいよ約束の地へと足を踏み入れていく。



【モーセを通して現れた主の栄光】 申34:10～12

モーセのような預言者は、もう再びイスラエルには起こらなかった。彼は、【主】が顔と顔を合わせて選び出したのであった。

それは、【主】が彼をエジプトの地に遣わして、ファラオとそのすべての家臣たち、およびその全土に対して、あらゆるしるしと不思議を行わせるためであり、また、モーセが全イスラエルの目の前で、あらゆる力強い権威と、あらゆる恐るべき威力をふるうためであった。

- モーセは、最初にして最も偉大な預言者だった。
主は、モーセを通して、ご自身の威光を現された。



モーセ以上の偉大な業はメシアによって成し遂げられる。

【すべての民に現された神のしるし】 申34:11～12

それは、【主】が彼をエジプトの地に遣わして、ファラオとそのすべての家臣たち、およびその全土に対して、あらゆるしるしと不思議を行わせるためであり、また、モーセが**全イスラエルの目の前で**、あらゆる力強い権威と、あらゆる恐るべき威力をふるうためであった。

- モーセと通して成し遂げられた主の偉大な御業は、エジプト全土(すなわち、この世の全地の異邦人)と、全イスラエルに対して、唯一の神のしるしとなった。
- イスラエル(ユダヤ人)も、異邦人も、誰一人、このモーセ五書(律法)に記された、創造主なる神を、知らないなどと、言い逃れすることはできない!!



Ⅲ. まとめと適用

モーセが見つかった一つの真理
ひとかたまりの神の計画に抱かれて

ネボ山からの景色

【モーセ五書(律法・トーラー)の土台・核をとらえよう!!】

創1:1「はじめに神が天と地を創造された。」

➡この唯一の創造主について教え、知らしめるのが律法

創 3:15「わたしは敵意を、おまえと女の間、おまえの子孫と女の子孫の間に置く。彼はおまえの頭を打ち、おまえは彼のかかとを打つ。」

➡【原福音】 ...神の計画の全容を一言で記すもの。

メシアが犠牲を払って、罪に墜ちた人類を罪と滅びから救い出す。

■神のご性質とご計画を中心に、律法は記されていく。

そして、神の計画は、イスラエルを通して現されていくことが明らかに!!

【雪だるま式に
拡大していく
神の計画】

原福音は、神の計画のエッセンス

律法にも、千年王国のイメージがあって当然!!

二重預言でも、
隠された意味でもない。
神の計画は、
その全体がひとかたまり。
部分にも、全エッセンスが！

原福音

モーセ五書
律法

預言者の書

福音書・使徒の教え

黙示録

それぞれのの中に、神の計画の凝縮
されたエッセンスがつまっている

【天に召されたモーセが握りしめていたもの】

- モーセの最後の祝福は、完成したイスラエルの姿を記すもの。
➡ 死に際して、モーセは、神の視点で今を見ることを教えられた。
- イスラエルが民族的に回心し、メシアが再臨される時が来る。
➡ アブラハムへの神の約束は完全に成就され、
イスラエルは、王なるメシアと共に世界を正しく統治する。
- イスラエルは、神に背き、懲らしめを受け、約束の地を追われる。
しかし、そのはるかな将来に、イスラエルの完成の時が来る。
- モーセは、完璧な安らぎに満たされて、主の元に召されたと確信する!!

主の目に見えているのは、
完成したイスラエルの姿。

【モーセの確信を、私自身、あなた自身のものとするために!!】

■時を超越した永遠の神が見ておられるのは、完成したイスラエルの姿。

➡主が、あなたに見ておられるのは、完成されたあなたの姿。

■福音を信じてなお、破れだらけで、つまずき、時に倒れる私たち。

この世を歩む限り、私たちの聖化の課程は終わることはない。

➡しかし、主の目には、私たちが栄化された、その姿が映っている。

■神の視点を得ていこう。そのために主は、御言葉を私たちに与えられた。

神の計画の全貌を学ぼう。御言葉が将来の確信を与えてくれる。

これからも、飽きず、たゆまず、聖書に親しみ、喜び、味わって行こう。

■わたしの今がどうあろうと、主の計画は確かになる。

そこにすべての力の源泉がある。

「天のお父さま。

わたしは、み子イエス・キリストが、

①わたしの罪を贖(あがなう)うために十字架で死に、

②墓(はか)に葬(ほうむ)られ、

③三日目に復活(ふっかつ)したこと、を信じます。

信じてなお罪を犯す私たちを、主よあなたが支え、導かれます。

モーセがゆるされたように、どうか、あなたのはるかな視点の、

その一部でも、私たちに垣間(かいま)見させてください。

永遠の神のご計画を信頼し、

主の平安の内に、今を生きる者としてください。

主イエス・キリストのみ名によって祈ります。

アーメン」